

夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀予
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

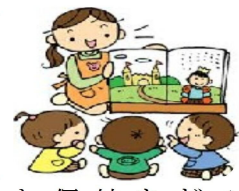


【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

声の文化と絵本 ⑩

絵本は一歳から百歳までの方が読むもの

家庭で本を手にする



◆図書館だとか、幼稚園や保育園だとか、学校だとか、子どもの集団の中で読むことは、とっても意味がある。でも、家庭で読んでもらうっていう体験があつて、それから集団の中で読んでもらいますと、それがほんとは広がって行く。みんなが喜びを共有するとか、共感するとか、そういう体験をすることによって、自分の喜びっていうものももっとも強くなってくる。あります◆ですから、まず家に言葉があるってこと。そして、その言葉を幼稚園や保育園、小学校や図書館でたくさんの方が共有する

そういう心をせひ考えて行っていたらいいと思います◆集団生活の中での読み聞かせは、「絵本の精神」って言いますか「絵本の力」って言いますか、そういうものが子どもの中に深く入って行かないんです。「ぜひ家庭で本を手にしていただければありがたいなあ」というふうに、私は感じています。

高齢者が絵本を読む時代



◆それから、お年寄りになられた方も、私も後期高齢者ですけども、この年になって絵本を読みますと「あ、こんなことが書いてあった」って思うことが度々あるんです。気がつかなかったって。自分が読んでもらったり、あるいは自分が子どもに



読んでやりたりして、この年になって読むと「あ、こういう読み方ができる」「こんなに日本の昔話、創作物語ってのは非常に深いことを語ってんだなあ」って分かってきます◆もう一つは、自分がそういうものを読んでもらった時、子どもに読んでやった時の喜びってのが蘇ってくるんです。そうすると、生きがいみたいなものを感じる。「ああ、生きてて良かった」って。これからは、高齢者の方に絵本が読まれるようになると思うし、また読んでいただきたい◆そういうことをもって



らっしゃる『絵本の力』という本があります。河合隼雄先生と柳田邦男さんと私の3人で書いた本です。あれをお読みいただきますと、河合隼雄先生が「絵本」というのは、「一歳から百歳まで読むものだ」ということを見事に書いてらっしゃいますし、本当にそうです。

未来をどう生きるか

◆これからは、年取った人が絵本を読む。そして、自分なりにどういふふう生きてきたか、何を喜びとして生きてきたか。そして、どんな人との間で自分が生きてきたかってことをもう一度よく思い返したりして、「生きる力」を絵本の中から汲み取っていただければと思います。ぜひそういうことを高齡化社会になりますんで考えていただきたい。先を、先を考えると行かないといけませんから◆過去を知るってことは、

* 次回は、2009～12年に開催された「絵本講座『こどものとも』の歩み(2)(3)」と「声の文化と絵本」の講演会終了後のQ&Aより、ピックアップしてお届けします。

現在を知るってことです。過去と現在を知らなければ、未来は見えて来ないんです。頭の中で、過去と現在の体験っていうものを生かして未来を見た時に、未来をどう生きるかできるわけですから。私はそういうことを最近つくづく感じます。◆私も現在、86歳(2012年)ですけど、これからです。どうぞ皆さん、お元気で。どうぞがとうございました。(おわり)

